

静岡県立清水東高等学校



1. 沿革

大正13年 静岡県立庵原中学校として設立
 大正14年 静岡県立清水中学校と改称
 昭和23年 静岡県立清水第一高等学校と改称
 昭和24年 静岡県立清水東高等学校と改称
 昭和43年 理数科を設置
 平成15年 創立80周年

本年創立82年目を迎え、卒業生は2万3千人余を数え、国内ばかりでなく世界の各界に幅広く活躍している有意な人材を送り出している。

2. 学校経営計画

(1) 目指す学校像

「文武両道」の精神に則り、知育・徳育・体育の調和を図るとともに、国家社会の有為な形成者として、心身ともに健全な生徒を育成する。

(2) 校訓

- ・誠実、清楚、気品ある人格を磨こう。
- ・自主、自律、旺盛な研究意欲を持とう。
- ・明朗、闊達、責任感をもって人事を尽くそう。

(3) 中期的な目標

地域社会から求められている使命を自覚し、生徒個々の多様な能力を最大限に伸張させるとともに、それぞれの生徒に「志」を明確にもたせ、その実現のために以下のことを目標とする。

- ・確かな基礎学力の上に、優れた応用力と創造力を育成する。
- ・幅広い知識と教養を身につけた優れた人格を育成する。
- ・健康で健全な体力及び気力を有する人材を育成する。

- ・外国語活用能力を豊かにし、国際社会で活躍できる人材を育成する。

3. 本校の特色

(1) 授業の充実

授業を重視し、3年間学校の授業さえしっかりやれば、大学に入学できる学力をつけることをめざしている。

(2) 補講等の充実

- ・基礎学力の充実・定着をはかるために、5教科の一斉テストを定期的実施
- ・学力アップのために、平日の放課後に3年生、長期休業中は全学年、補講を実施
- ・土曜講座を月2回実施、2年生では7泊8日の学習合宿を実施

(3) 理数科設置

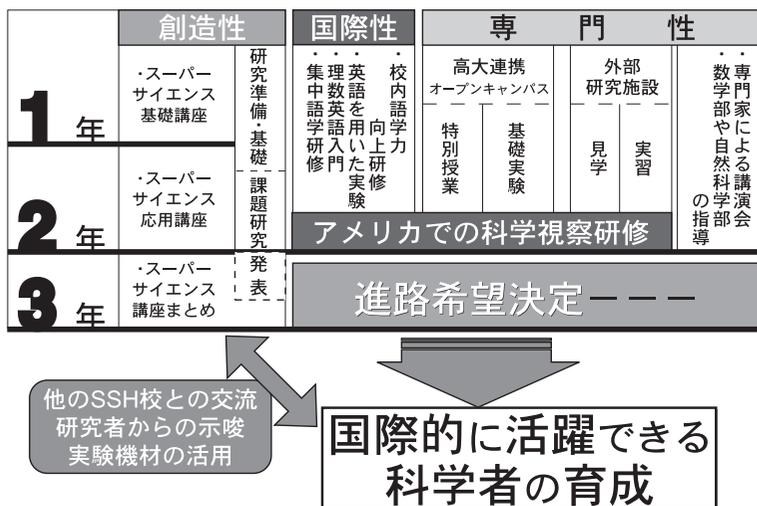
理数科は新しい科学技術発展の担い手を育成するために、昭和43年、全国に31校設置された。本校の理数科はそのうちの1校で、県内では最初の設置校である。卒業生は理・工・医学部を中心に進学し、社会の広い分野で活躍している。

(4) 文武両道

「文武両道」を目標に、運動部・文化部の活動や生徒会活動が活発であり、多くの実績をあげている。サッカー部は全国優勝6回、野球部は甲子園出場4回、放送部はNHK杯全国大会出場、等輝かしい記録を持っている。

4. スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 研究開発

スーパーサイエンスハイスクール (略してSSH) 事業は、文部科学省によって、「科学技術、理科・



清水東高等学校 スーパーサイエンスハイスクール3年間の概念図

数学教育を重点的に行う学校をスーパーサイエンスハイスクールとして指定し、高等学校及び中高一貫教育校における理科・数学に重点を置いた取組を大学等との密接な連携の下で推進し、将来の国際的な科学技術系人材の育成に資する」ことをめざす事業である。この事業は、平成14年度から始まり、本校は3年目にあたる平成16年度に指定を受けた。現在、全国の指定校は82校、静岡県下では本校を含めて2校となっている。

(1) 研究開発の目的

将来、科学者として国際的に活躍できる人材の育成をめざし、自然科学を学ぶ上での基礎となる論理的思考力や、創造力を養う教育課程、指導方法、教材等を研究・開発する。

(2) 研究の概要

科学者として国際的に活躍できる人材を育成するために、以下の研究を行う。

- ・大学・研究機関・企業等との連携を図り、大学への橋渡しとなる高度な内容の理数科目を研究・開発する。
- ・英語による理数科目の授業や語学研修等を実施し、語学力の強化を図る。
- ・現行の学習指導要領の枠にとらわれない理科・数学教育を実践するための既存の枠を超えた教育課程を研究開発する。

(3) 研究開発の実施規模

平成16年度全日課程理数科入学生、全日課程普通科自然科学部及び数学部に所属する生徒を主たる対象として実施する。一部の内容については全生徒を対象とする。

(4) 研究開発の内容

・「課題研究」の充実
学校設定科目として「スーパーサイエンス基礎講座」「スーパーサイエンス応用講座」を設定し、その中で課題研究を行ない、今まで以上に

充実したものを考えている。

・高大連携

静岡大学理学部と連携し、大学の先生方を本校に講師として招き、物理・化学・生物・数学等の現代的課題の講義を行ない、課題研究の推進に助力を得ている。例えば、その中の数学の講義は、下記のとおりである。

日時：平成17年2月18日、約2時間

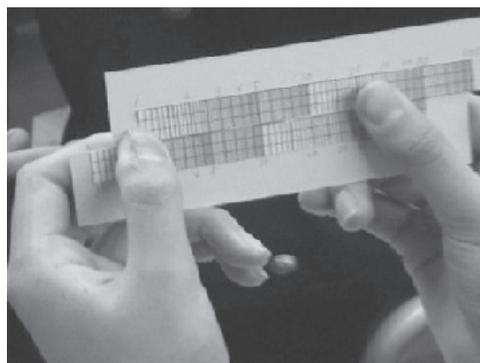
講師：静岡大学理学部数学科教授 小山晃先生

内容：対数の起源とその歴史的役割

対数方眼紙を使ってみよう

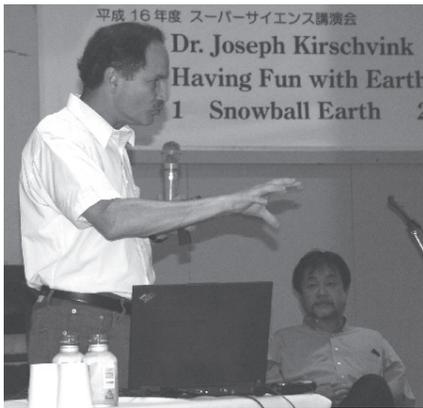
計算尺を作ってみよう

また、浜松医科大学とも連携し、生命科学分野における現代的課題にも触れることができた。



・一流の科学者の講演

昨年は、カリフォルニア工科大学のカーシュビンク博士（全球凍結説で有名、NHKのスペシャル



番組「地球大進化」にも取り上げられた)による英語の講演を実施した。質問もすべて英語という徹底したものであった。

・「化学を英語で！」

化学の授業を、化学を専門に学んできた外人講師(ALT)と化学担当教員とのチームティーチングで実施、「Think in English」を合言葉に、英語を道具として使えるよう、実験を中心とした授業を行なっている。

・一流の施設で研修

日本科学未来館・つくばエキスポセンター・宇宙開発事業団筑波宇宙センター・静岡がんセンター・関東自動車を訪問、一流の施設を視察し、そこで働く研究者の生の声を聞くことができたのは、生徒にとっても貴重な経験であった。

・アメリカでの研修旅行

2年生理科の研究旅行を今年度からアメリカの研修旅行に変更した。これはSSH事業の一環として計画され、将来、「国際的に活躍できる科学者」となる場合、アメリカとの関わりが多くなると考え、渡航地としてアメリカを選定した。アメリカの中でも、先端技術や科学研究を学ぶことができ、費用対効果が高い点を考慮して、主に西海岸のサンフランシスコ周辺を最適と考えた。

そこで、一流の施設(シリコンバレー等)、一流の大学、ヨセミテ国立公園、現地高校生との交流等を計画に入れた。

・部活動の取り組み

数学部では数学オリンピックの参加をめざし、自然科学部では、物理・化学・生物・地学の各班

に分かれ、それぞれの班で一部専門の指導者を招く等、活発に活動を行っている。

(5) 研究の成果

このような取組の中で、成果も少しずつ出てきている。以下にそれを紹介する。

・数学オリンピック

各県で実施される県予選に本校から3人が通過。毎年県から数人(ここ2年間では予選通過者なし)が県予選を通り本選に望むが、一つの高校から同時に3人も選ばれるのは非常に珍しいことである。残念ながら3人は、最終選考を通過せず、日本代表にはなれなかったが、よく健闘してくれた。

・生物学オリンピック

1990年に旧チェコスロバキアで第1回大会が開催され、当初6か国だった参加国は、昨年のオーストラリア大会では40か国に増えた。日本は今年初めての参加で、国内では約330人が挑戦し、日本代表4人が選ばれた。

その代表の中に本校の生徒がみごと入り、7月の北京大会に参加した。

・山崎賞受賞

TDK株式会社相談役を務めた故山崎貞一氏が設立した、山崎自然科学教育振興会が主催する「山崎賞」学校の部で受賞した。

・はごろも教育研究助成賞受賞

財団法人はごろも教育研究奨励会の「第5回はごろも教育研究助成賞」を受賞した。

まだ取り組み始めてから1年しか経過していないが、校内のSSH実行委員会を中心に学校全体が協体制をとり、また静岡大学をはじめとして多数の外部の方々の御協力があったここまでこれたと思っている。

(文責 静岡県立清水東高等学校教頭 小林滋紀)